

第5回「山口県立大学高大連携の推進強化に関する検討協議会」概要

1 日 時

令和5年9月14日(木) 10:00~11:20

2 場 所

山口県立大学北キャンパス 5号館 1階 E104会議室

3 出席者

松野会長ほか委員8名(1名欠席)
その他、別紙配席図のとおり

4 議題等

(1) 会議の公開・非公開について

第1回の会議で、附属高校の設置に関する議事は、すべて非公開とすることと決定しており、今回の議事についても附属高校の設置に関するものであることから、非公開とすることを確認した。

(2) 議事

附属高校の設置について

○附属高校の対象校について

事務局から、「候補校3校の校長から聞き取った教育活動・内容」、「附属高校の設置により県立大学で行いたい教育」など、これまでの検討状況を再確認するための説明を行った後、県立大学の教育とのマッチングの視点から候補校の絞り込みに向けて協議した。

<委員からの主な発言>

- ・ 周防大島高校における地域の課題解決や地域活性化に向けた様々な取組を地域と上手く連携しており、県立大学が目指す探究的な活動・学習につながるのではないかと。
- ・ 県東部は高等教育に接する機会が少ない地域であり、県東部への附属高校の設置は、県央部に目を向けてもらうきっかけにもなることから、若者の県外流出の防止が期待できるのではないかと。
- ・ 周防大島高校が附属高校になった場合、地域の課題解決や地域活性化に向けた取組を経験後、県立大学に進学することも可能となる。

この場合、県立大学において同様の取組を行う際、附属高校以外の高校から入学した学生に対し、その経験に基づいたリーダー的役割が期待でき、県立大学が目指す「地域とともに未来を切り拓いていく大学」に向けての機能強化にも結びつくのではないかと。

- ・ どの高校も魅力的であるが、県立大学で行いたい教育とのマッチングという視点からすると、周防大島高校が他の2校よりマッチしていると思われる。

- 他の2校も県立大学と教育的つながりがあるが、周防大島高校のみ、5学科すべてと教育的つながりがある。
県立大学と連携した活動も他校より多いことから、既に連携に意識ができていないのではないか。
- 県大附属高校の対象校の選定にあたっては、現在の教育活動・内容を踏まえ、高校と大学との教育が適切に接続することにより高大7年間でいかに効果的な教育を行うことができるかが極めて重要。
周防大島高校は、県立大学の全ての学科と教育的つながりがあり、県立大学が目指す高大7年間の一貫した教育理念による人材育成において大きな成果が期待できるのではないか。
また、地域課題の解決や地域活性化に向けた取組において、周防大島高校は様々な内容・形で取り組んでおり、例えば、同校を中核とし産学官など様々な組織が参画したプラットフォームを形成し、環境保全や地域の活性化のための活動を行っており、国からも高い評価を得ているとのことである。
こうした取組は、県立大学が行おうとしている広い視野を持って課題解決に挑戦することの意義を理解させる上で有用であり、これまでの取組実績を活かした教育を展開できるという点においても、県立大学の目指す人材育成において大きな成果が期待できる。
- 周防大島高校が県立大学附属高校としては最も合っていると思われるが、県立大学への入学者が少ない。現状のまま附属化だけするという訳にはいかないとと思われるので、連携方法や入学者選抜方法も考えていくべきである。
- 山口県の人口減少は、令和7年に130万人を下回る予想が実際には令和5年に下回っており、予想より早くなっている。その大きな要因は高校卒業後の進学等に係る社会減であるが、特に県東西の地域において多くなっている。
こうした県外流出者を県立大学に引き付け、県内定住に向けた選択の幅を増やすことが重要ではないか。
- 周防大島高校は、候補校の中で最少規模であるが、県立大学の規模的にも、適当ではないか。
- 周防大島高校で行っている良い取組みは継続し、附属化後は、さらに良いものにして欲しい。
- 周防大島高校は県立大学との距離が遠いが、今後、他の高校との附属高校以外での高大連携を進めるに当たり、モデルケースとして良いのではないか。
- 周防大島高校と県立大学との距離が遠いということは、それぞれの所在する地域の文化が異なるということ。異なる文化を学ぶことができるという点でも良いのではないか。

協議の結果、協議会案を次のとおり決定した。

- ①県立大学附属高校に係る設置者変更の対象校については、
- 現在の教育活動・内容について、県大の全ての学科と教育的つながりがあり、県大が目指す高大7年間の一貫した教育理念による人材育成において大きな成果が期待できること、
 - 中でも、地域課題の解決や地域活性化に向けた様々な取組は、県立大学が7年一貫で行おうとしている「広い視野を持って課題解決に挑戦することの意義を理解させること」に関して有用であると考えられること、
また、これまでの取組実績を活かした教育を展開できることから、県立大学の目指す人材育成において大きな成果が期待できること、
 - 県東部地域は、高等教育に接する機会が少なく、また、県外への若者の流出が多いことから、県東部地域への附属高校の設置は、県央部に若者の目を向けてもらうきっかけにもなり、県外流出の防止が期待できること、から、県立周防大島高校とする。

②設置（開校）時期について

県立大学が目指す人材育成をなるべく早く進めるため、最速と考えられる令和8年4月開校を目指すべき。

③補足意見について

設置者変更対象校及び開校時期については、その所在する自治体の首長、高校関係者等への説明が必要と思われる。

また、附属高校の開校に当たっては、今後も県教育委員会とも連携しながら、県立大学附属高校ならではの特色・強みを打ち出して欲しい。

5 次回開催予定

未定

（「附属高校の設置に関すること」以外の「高大連携の推進強化に関すること」を協議する際に開催予定）

《委員名簿》

所属・役職等	氏名	備考
山口県総合企画部次長	浅川 正司	
(公財)山口県ひとづくり財団理事長	浅原 司	
山口経済同友会副代表幹事	井本 浩二	欠席
山口県総務部次長	大塚 俊司	
山口県教育庁副教育長	木村 香織	
公立大学法人山口県立大学入試副本部長	丹 佳子	
山口県教育長理事	原田 英明	
国立大学法人山口大学理事・副学長	松野 浩嗣	会長
株式会社山口フィナンシャルグループ 常務執行役員 地域共創事業本部長	矢儀 一仁	
公立大学法人山口県立大学副学長	吉村 耕一	